

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： イメージングとオミクス解析による血管壁細胞発生の理解
2. 個人研究者名
安藤 康史（日本医科大学 先端医学研究所 講師）
3. 事後評価結果

本ACT-X研究では、未解明なところが多い血管の壁細胞発生機構を解明すべく、世界に先駆けて樹立した壁細胞を可視化したゼブラフィッシュを用いて、壁細胞から平滑筋細胞への分化をとらえることに成功し、またその分化機構の解明も行いました。ゼブラフィッシュという実験材料を生かした研究により、この分野に一つのブレイクスルーをもたらしたと言えます。さらにゼブラフィッシュに加え、壁細胞研究に有用な周皮細胞標的モデルマウスの創出にも成功し、これら独自の研究ツールを駆使することで壁細胞研究をリードするとともに開発ツールも公開しており、世界中に普及することが期待されます。また、異分野の研究者と相互触発しながら研究者ネットワークを広げるとともに、国際共同研究も積極的に推進し、研究者としての飛躍に繋げることができました。これから本研究分野の第一人者となるべく、さらなる飛躍が期待されます。